

第1卷【春の章】

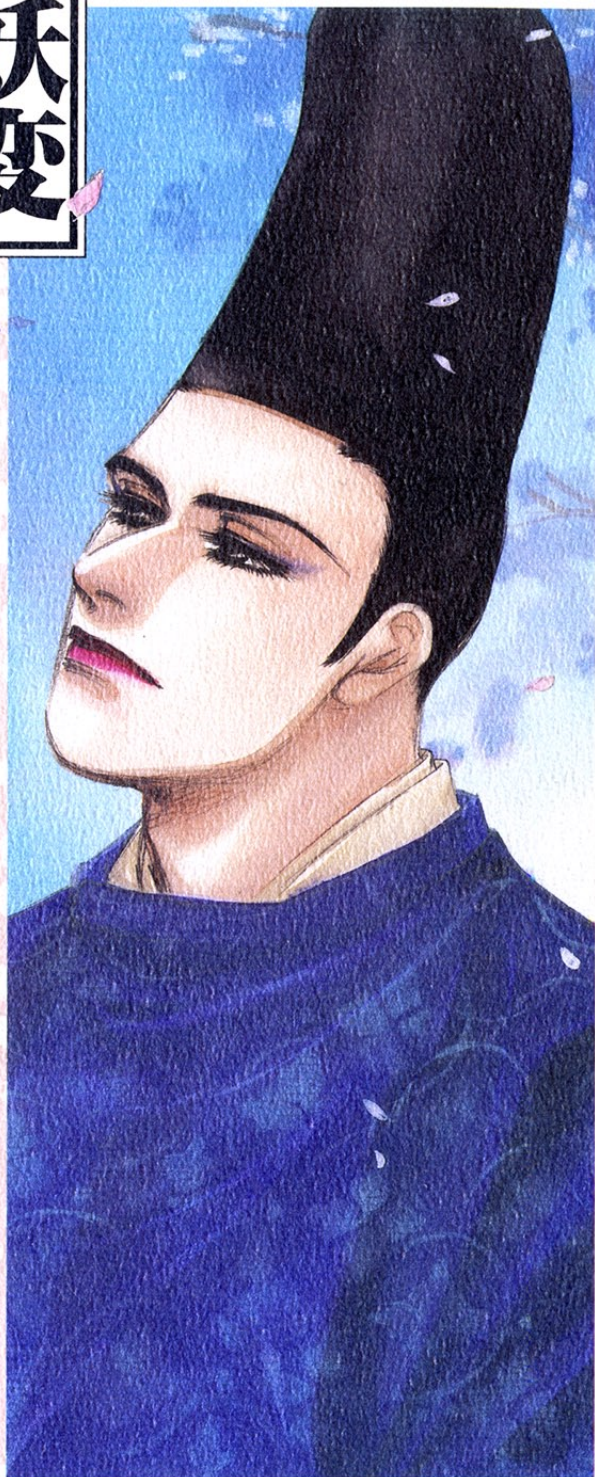
寺館和子

妖変

源氏物語

げんじ

ものがたり



妖変

源氏物語

第1卷【春の章】

寺館和子

妖変
源氏物語
第1卷【目次】

【紫の上】の巻
三

【藤壺】の巻
五三

【六条御息所】の巻
一一九

紫むらさ
の上うへ


か
彼の方は光の中から現れた

深い夕闇の霞の中で
その方の周りだけが
光にあふれ輝いていた

“光の君”

それは 私の まさしく初めての恋





あどけない少女の瞳に女が宿る。
嫉妬に身を焦がす
女が育つ。

紫の上

むらさき

うへ



原典のあらすじ【紫の上】

父の桐壺帝きりつぼていの妻である藤壺ふじつぼと過ちを犯し、子までなして父帝への大罪におののく源氏げんじの君きみであつたが、藤壺への想いは断ち切れなかつた。愛してはいけない、会つてはいけないと思へば思ふほど、源氏の君の胸中は藤壺の面影で占められていた。

そんな中、十八歳になつた源氏の君は、病をわずらつて聖のもとに加持を受けにきていた。そして、藤壺の面影を宿す美しい少女である紫むらさの上うへと出会う。実は、紫の上は、藤壺の兄である兵部卿宮ひょうぶけいのみやの娘であつた。

紫の上の母は正式に世間に認められた妻ではなく、父親である兵部卿宮にはすでに身分のある正妻がおり、不遇のうちこの世を去つた。そのため、紫の上は、母方の祖母に育てられていたのである。

源氏の君は、藤壺に似たこの少女を手もとに引き取つて育てたいという思いにかられるのだったが、紫の上があまりに幼かつたため、その意向は受け入れられなかつた。しかし、祖母が他界し、実父のもとに引き取られることを聞いた源氏の君は、紫の上を連れ出して二条院の自分の屋敷に住まわせるのだった。



お開け
下さい
君の
御車です

誰の車
ですって!?

何事ですか
こんな
夜更けに



だからです

あの子はもう
休んでるんです
明日は父君が
迎えに…



そんな…
突然ですわ



私です

あ…っ

◆この作品はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係ありません。



なあに？

ねえ！

私ですよ

約束どおり
迎えに来ました
私と一緒に行きましょう



源氏の君…？

…



二条院へ

嫌なんて…!!



嫌ですか？



源氏の君？
本当に
源氏の君
なのね

そうです
父君じゃ
ありませんよ

今宵から
あなたの面倒は
私が見ます

11# 11# 11#



あー
犬君
何するの

雀の子が
逃げちゃった
じゃない



せっかく
ヒナから
育ててたのに
——っ

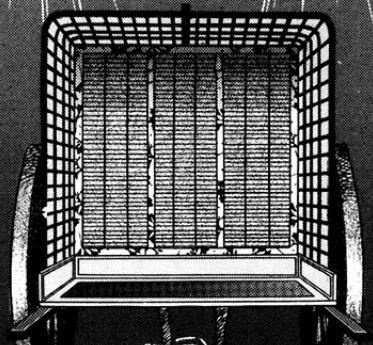
△す
△す

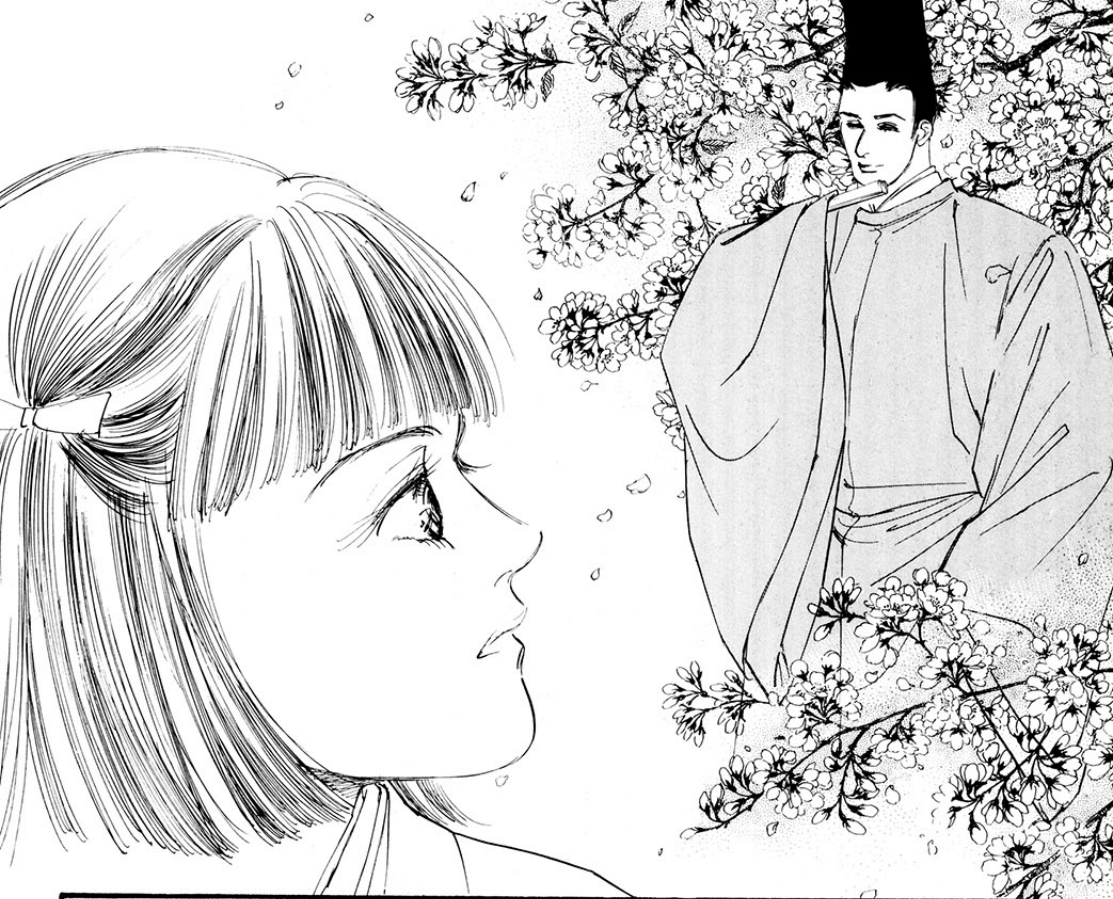


すつと
こうなるのを
夢見てたの

源氏の君と……

源氏の君を初めて
見た時から……





誰？

なんて
美しい人……



父上じゃない……



…いない…



チラ…

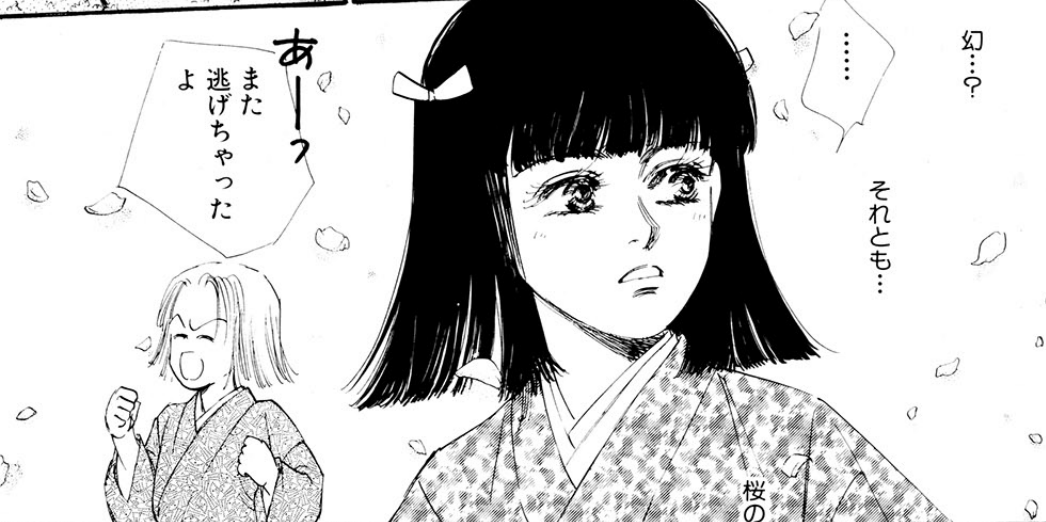
あ
の
木
の
上…

あそこ？

どこ
どこ

あ
あそこ
に
と
ま
っ
た

あ



幻…？

それとも…

あー？

また
逃げ
ち
や
っ
た
よ



ほんとに
いつまでも
子供っぽいことを

だってーっ
犬君が
悪いのよ
私の雀を



…つたく

生き物を
飼うなど
いつもいつてる
じゃないか

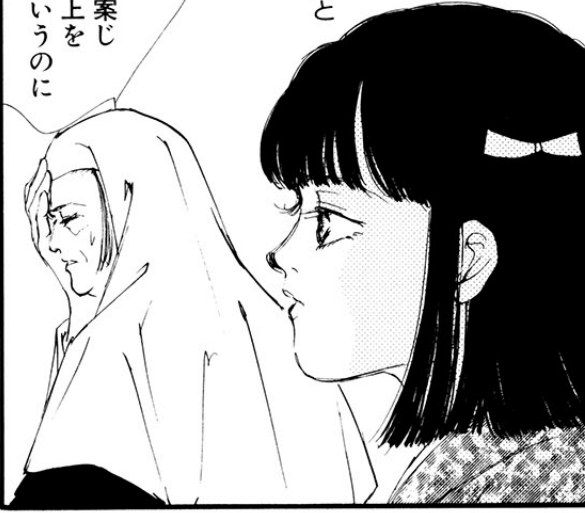
桜の精…？

おばあちゃんに
聞いたら
わかるかしら
さつきの人のこと

私が行く末を案じ
あなたの身の上を
心配してるといふのに

あなたの母は
同じくらいの年
もっと大人びて…

なんだい？



ううん
なんでも

誰にも
話したくない



私だけの
秘めごと…

聞きましたか
皆さん

110
7 7



源氏の中将が
この山の上の聖の
ところに
来ている
そうですよ

えー！？

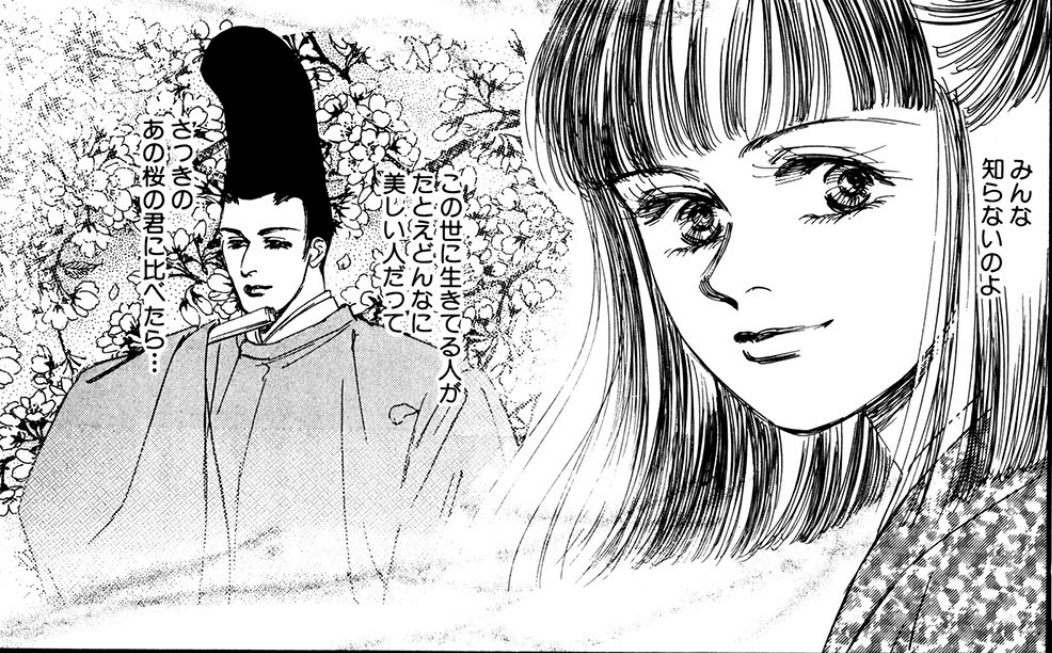
あの源氏の君が！？

近頃噂の高い
光源氏みづげんじが
ですかー！？

ムチャクチャ
きれいという
評判じゃ
ないですか

一見したら
寿命ものびる
かしらねエ





みんな
知らないのよ

この世に生きてる人が
たとえどんなに
美しい人だつて

さつきの
あの桜の君に比入たら...



どうしたの
姫君
ごあいさつは

この方が
光源氏の君
ですよ

あの桜の君...



は
はじめまして

私の桜の君が...





兵部卿宮：

それでは
藤壺の宮の
姪になるのか



本当に
まだ子供で

これの母は
この子を産んで
亡くなり：
もう十年にも
なりますか

兵部卿宮が忍んで
いらしてこの子が：
でも宮には奥方が
いらしたので娘はそれを
案じて病気に……



私は先が
短い身

この子の行く末を
考えると
どうしていいやら……



え？

いかがでしょう
それなら
私とその子の
後見に……



いえその
「男と女」という
ことではなく
考えて頂くわけには
いかないでしょうか

私も幼い頃
母を亡くした身

同じ境遇の姫と
これも何かの
縁と思って
下されば：

ぜひ私に
その子の面倒を

私が：
源氏の君に…!?

こんな
子供に

——なんて
いわれてもね

あと数年
したら
「女」として
考えられる
けどねえ

でも
源氏の君の
女癖は噂以上
ですってよ

姫を
妻にでも
するつもり
かしら

すぐ二三月で
あきらめますよ

そんな…!!

どうして
あんなことを

相手は
年端もいかぬ
子供じゃ
ないですか

いや
あの子は
すばらしい女性に
なるよ

私の手許で
育てれば

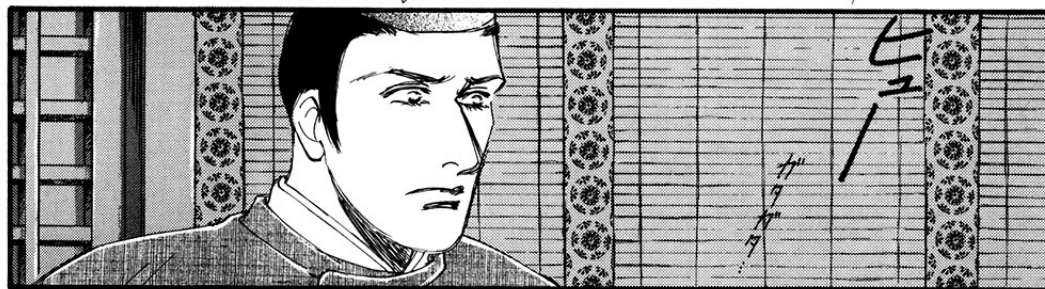
それに

あの方の
血もひいてるのだから…

藤壺の宮…

あの夜から私を
避けて
いらつしやる…

祖母君が
亡くなった？



おばあ様も
ずっと
案じて
おりました
姫君の
身を

ですから
私が…

有難い話ですが
そうもいきません
父君が引きとる話も
ありますし





せめて
もう少し
姫君が
大人なら…

ねエ
少納言
直衣のうしを
着た方が
来てるって

お父君のこと
?



私ですよ
姫

あ…

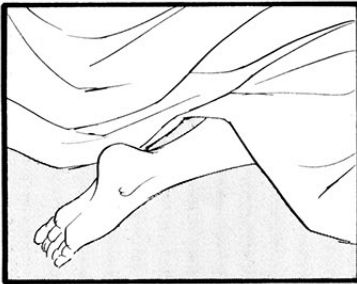


どうして
隠れるん
ですか
私の膝に
いらっしゃい

これ
姫君

かや
かや
かや
今晚は私が
宿直どしのを
しましょう
こんな夜に
女だけでは
心細いでしょう
から

外は
霰あられが降って
きました



姫も私を
嫌わずに…

